

4. 人体試料, 廃棄物の取扱い

広島赤十字病院 広島原爆病院 放射線科

鷺海 良彦

従来, Scanning がその大部分を占めていた RI 診療において, 最近では T₃, T₄, Rodioimmunoassey 等の in vitro test に加えて, 鉄代謝, 脂肪吸収試験等の人体試料を取り扱う検査が増えてきた。

人体試料, 廃棄物の取扱いについては, 放射線医療従事者の放射線による汚染, 被曝の問題, virus, 細菌による感染の問題がからんで来る。人体試料である血液, 尿, 便, 胸水, 腹水等の試料採取場所, 採取方法, 保管方法, 検査時にあたっての被曝, 汚染, またオースリア-125のように virus 感染の危険性のあるものに対する対策, 処理方法, 更にこれらの廃棄についての問題点等を今一度検討し直す必要がある。

そこで, 実際にどのように取り扱っているかについて, 国内の RI 施設の完備した病院のうち, 数施設を選び, 直接にアンケート調査を行なう。この資料に文献的に検討を加えた上で, 現在の RI 診療の問題点を分析し, 今後の改善について私見をのべる。

5. 患者の取扱い

東京大学分院

町田喜久雄

医療の中で, RI 診療の重要性が次第に認識され, その業務が日常化されつつある現在, その患者診療の特異性から医療上, 法律上とくに一般患者とは異なった注意を払うことは周知の事実である。

理想的に考えるならば, RI 診療はすべて放射線科医の管理のもとに行うべきであり, その診療が完結するまで, RI 病棟をはじめとする管理区域において診療を行わなければならない。これは RI を使用する性質上, 第3者および患者自身に対する放射線障害を防ぐために欠くべからざるものと考えられる。さらにその医療には, 医師の他に, 訓練を受けた看護婦, 技師, 事務員が必要なのは当然である。

現段階では, 治療以外の検査を目的とする RI 診療は各科受持医と放射線科医の総合判断のもとで行われ, その検査報告を放射線科医がレポートするのが普通のものである。そして RI 診療に関しては放射線科医が責任を有すると思われるが, 必ずしも明確ではない。

しかしながら RI 診療が RI 病棟を中心とする管理区域にて, 行われるようになれば, これらも当然すべて放射線科医に責任が帰すことになる。

以上のことは, 医療の高度化にともなって生ずる分化という時代の流れの中でもとらえる必要がある。

現時点で RI 診療を理想的に行うためには, RI 病棟を中心とする管理区域の開設と充実, それを円滑に動かす, 放射線科医, 看護婦, 技師などのマンパワーの増強が焦眉の急である。